

2 兵庫県における地域固有野菜の探索

ねらいと成果

県内の野菜産地は価格の低迷、生産者の高齢化等により活力が衰えつつある。一方、BSEや食品表示の偽装問題に絡み、食の安全性確保が重要になっており、地産地消の野菜生産が求められている。本県にはかつて地域風土の中で育まれた個性豊かな野菜が存在したが、戦後、F₁品種の台頭で衰退し、絶滅の危機に遭遇している。そこで、県下の地域固有野菜の種苗を収集して、地場産地活性化のための資とした。

内容

県内のJA、普及センター、種苗会社等を通じて、かつて栽培されていた野菜種子を収集し、文献、聞き取り並びに栽培調査を実施した。これらの中にはある程度産地形成が認められる品目や、既に復活の兆しが認められる品目もある。一方では数軒の自家菜園で細々と栽培されている品目もある。収集した種苗は表に示したとおりである。

なお、既存産地があり、産地としての永続性が認められる品目（丹波ヤマノイモ、丹波黒大豆、岩津ネギ、三田ウド）や固有品種の存在しない品目（大市タケノコ、姫路レンコン）は収集対象から除いた。歴史的に最も古いのは、天平年間に導入された武庫一寸ソラマメで、我が国の大粒種の起源とされ、当所で1991年に選抜が終了している。その他、江戸時代以前から栽培されていたのは、平家カブラ、岩津ネギ、妻鹿メロンであるが、大半の品目は明治以降に導入されたものが多く、昭和40年代後半以降、急速に衰退した。比較的新しい品種は、キュウリ（宍粟三尺、青垣三尺）、ピーマン（石井みどり）が昭和30年代である。



写真 我が国の大粒系ソラマメの起源とされる「武庫一寸」

どの年代から地域固有野菜として扱うかは、意見が分かれるが、特徴ある品目を探索することは地域特産物の付加価値を高める手段でもある。

今後の方針

調理、加工特性を明らかにするとともに、機能性成分等の特徴を見出し、減農薬栽培により地場産地で生産振興を図る。

表 現在収集した兵庫県における地域固有野菜

種類	名称	栽培地域	採種状況
キュウリ	宍粟三尺	宍粟郡	自
	青垣三尺	青垣町	自
マクワウリ	イナミペッチン	明石市	会
	網干メロン	姫路市	自会
	妻鹿メロン	姫路市	自
	深志野メロン	姫路市	自
	加古川メロン	加古川市	自
	白皮千成梨甜瓜	播磨地方	自会
スイカ	嘉寶	播磨地方	会
カンピョウ	中長干瓢	播磨地方	会
トマト	オランダ	伊丹市	自
	ナス	(西宮市)	自
ピーマン	垂水	(神戸市)	会
	網干	(姫路市)	会
	姫路中長	(姫路市)	会
	石井みどり	(佐用町)	自
	明石	(明石市)	自
イチゴ	鳴尾イチゴ	(西宮市)	自
	ソラマメ	武庫一寸	自公会
	富松一寸	尼崎市	自
エンドウ	兵庫絹莢	(明石市)	自
	ネギ	岩津	自公
雑菜	姫路若菜	姫路市	自会
	網干水菜	(姫路市)	会
	平家カブラ	香住町	自
	ヤマノイモ	丹波ヤマノイモ	自公
カンショ	四十日蒔	(尼崎市)	自公
	尼崎赤	(尼崎市)	自公

採種：自；自家、会；種苗会社、公；公的機関
 ()：栽培地絶滅または未確認
 小林 保（農業技セ・園芸部）